

【提出様式】 令和6年度 豊島区立学校 学校評価 自己評価表

豊島区立 西池袋中 学校

評価対象者数（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
468	303	26	12

領域	豊島区教育 ビジョン 2019 基本方針等	評価 番号	評価項目	年間評価																学校関係者による評価		次年度に 向けた 改善策				
				児童・生徒				保護者				地域				教職員				自己評価 概要	学校関係者 評価の意見		標 語			
				4	3	2	1	4	3	2	1	0	4	3	2	1	0	4	3					2	1	
I	就学前から小学 校・中学校への 円滑な接続	I－1	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、 中学校)と連携を図ろうとしている。						196	98	9	0	0	6	5	1	0	0	16	9	1	0	今年度は例年行っている連携の取組だけでなく、地域の方々の協力のもと、七夕や花火、餅つきなど季節のイベントを行い近隣の関係諸機関との連携を図ってきた結果であると考える。	関係機関と連携を図り、困り感のある子の情報も民生委員の間でも上がっており、連携を密にとっていると感じている。	A	次年度は西池中ブロックの小学校との小中連携推進協議会において今年度の連携をさらに発展させるため特別活動のに関する分科会を立ち上げ、また各教科の9年間の学習カリキュラムのつながりを意識した授業作りを行う分科会を設定してさらなる連携を図っていく。
II	確かな 学力の育成	II－1	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児 童 ・ 生 徒 を 対 象 と し た ア ン ケ ー ト 集 計 表 を ご 参 照 く だ さ い 。				65	174	54	10	0	8	4	0	0	0	20	6	0	0	授業改善推進プランに基づき、生徒にとって分かりやすい授業となるようにICT機器を活用した授業を全教科で実践してきた。今回のアンケート結果から、生徒の学習に対する理解度（定着度）を向上させるための取組にさらに力を入れ、生徒自身ができるようになったことが実感できる授業実践が必要だと考える。	ICT機器やタブレットを使用して授業を行う様子が定着してきている。時代に合わせ取り入れていくべき技術の選定にさらに検討を進めて欲しい。放課後の学習支援員をつけたりしたことは良いことだと感じているが教科が限られてしまっていることが改善点であると考える。	A	生徒自身が考えをまとめたり、発言したりする機会を設けるために、学習課題に向かう際の見方、考え方を理解させ、思考を深める基盤を作る必要があると感じている。小中連携推進協議会を通して、9年間の学びが、スパイラルで行うことの重要性を確認し合い、学習基盤の構築に努めていく。	
		II－2	学校は、ICT機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。					82	160	53	8	0	5	7	0	0	0	16	9	1	0					
III	豊かな 心の育成	III－1	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をと おして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。					145	136	20	2	0	8	3	1	0	0	17	9	0	0	道徳授業地区公開講座では実生活で問題となっているテーマに関する講演を行うことを通して、生徒自身の心に寄り添うために保護者、地域、教員が活発に意見交換を行うことができた。また、土曜の授業公開の際にも道徳の授業を実施し、本校の道徳教育の周知へ繋がったと考えている。	道徳授業地区公開講座はとても貴重な会であると感じる。今の生徒達が直面している課題に対してどのように考えているのかを保護者や地域の方々が直接体験できたことはとても意義深いと感じる。次年度も土曜日に実施して欲しい。	A	生徒を取り巻く環境が刻々と変わる中で、どのような状況でも対応できる強い人間になれるように、道徳の授業だけでなく全教育活動を通じて生徒自身の道徳心を養えるように努めていく。また専門家による講演や地域、保護者の方々との意見交流会の実施も今年度同様密に行い、自校の生徒の特色に合わせた取組となるように努めていく。	
		III－2	学校は、生命を大切に する態度や思いやり、優しい心を育てている。					112	166	24	1	0	6	6	0	0	0	18	8	0	0					
IV	健やかな 体の育成	IV－1	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。					127	151	22	3	0	9	3	0	0	0	16	9	1	0	学校内の取組をHPだけでなく、連絡通信アプリ「tetoru」を活用し、保護者に直接保健だよりや給食だよりを配信してきた。生徒自身も徐々に体力向上に向け、運動や食に興味・関心の高まりが各教科の授業内で見られている。	学校保健委員会の会議に参加したさいに充実した取組を拝見した。地域としても生徒の健康維持に向け、できる限りのサポートをしつつ、食育等に関する内容の周知にも協力していきたい。	A	次年度も保護者に直接学校からの情報を発信し、食育や体力向上に向けた取組を周知していくとともに、生徒の実態を把握しながら各教科でも適切な指導を継続していく。	
		IV－2	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。					140	141	21	1	0	7	5	0	0	0	17	7	2	0					
V	一人一人を大切にする 教育の推進	V－1	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早期対応）に学校全体で組織的に対応している。					110	155	34	4	0	7	5	0	0	0	24	2	0	0	いじめ防止に対する学校全体の取組は今年度も保護者に向けて公開授業や保護者会の際にしっかりとした取組の周知を行った。また特別支援コーディネーターを中心に関係諸機関と連携し生徒の特性に配慮した指導が行えるように職員全体で取り組んできた。	いじめ防止に関する取組を学校全体で力を入れている様子は年間を通して感じられ、素晴らしい。また、特別支援学級との交流及び共同学習についても素晴らしいと感じている。新しくできる不登校支援教室の取組にも期待している。	A	特別支援コーディネーターを中心とし、組織的な対応を継続していく。また、生徒個々の生活環境や生育歴等を鑑みながら対応できるように小学校からの引き継ぎや学年間の引き継ぎを密に行う。また、次年度から不登校支援教室が開設することも踏まえ、現状よりも全体で生徒を指導する体制と意識を教員間で確認していく。	
		V－2	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。					130	149	23	1	0	7	5	0	0	0	19	7	0	0					
		V－3	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。					154	130	18	1	0	7	5	0	0	0	18	8	0	0					
VI	教師力の向上と 魅力ある 学校づくり	VI－1	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。					143	143	14	3	0	5	6	1	0	0	18	7	1	0	本校の特徴として「落ち着いた学校」「あいさつの活発な学校」という声がよく聞かれる。土曜授業時の参観者アンケートでも同様の声が多く寄せられている。また保護者や地域の要望について運動会やその他のイベント等保護者が特に関わる行事で改善した点が実感できるように務めてきた。	どの生徒のケースでも校長、副校長をはじめ全教職員が真剣に向き合っていると感じている。「道の駅」の整備や人員の確保も進んでおり、改善をはかっていると感じている。	A	次年度からコミュニティースクールとして地域の方々と共に協力し地域や保護者の要望を取り入れながらより良い学校運営ができるようにしていく。	
		VI－2	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。					126	154	21	2	0	7	5	0	0	0	17	9	0	0					
VII	家庭・地域との 連携	VII－1	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。					194	99	7	3	0	5	7	0	0	0	17	9	0	0	HPは毎日更新だけでなく行事の際にはタイムリーに更新して、生徒の様子を発信してきた。また今年度からtetoruを導入し、学校からの文書を保護者に直接配信できるようにした。そのため、保護者の肯定的な意見が前年度よりも高くなったと考える。	依頼したボランティア活動へ西池中生が参加し、活躍してもらえたことはとても助かった。また、季節のイベントを立ち上げボランティア精神を養う場を学校が作っている点も素晴らしいと感じています。小学生の保護者も学校の情報は良く見ており、学校選択の資料になっている。引き続き力を入れて行ってほしい。	A	次年度は『すぐーる』を活用して今年度同様学校からの情報発信を適切に行い、保護者が学校の現状や取組を把握できるように務める。また、今年度同様学校HPを充実させ、開かれた学校運営を実践していく。	
		VII－2	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。					120	146	31	6	0	9	3	0	0	0	18	7	1	0					
VIII	特色ある 教育活動	VIII－1	学校は、「あいさつ運動」への取り組みに関する教育を推進している。				152	123	22	6	0	10	1	1	0	0	18	7	1	0	「あいさつのごたまする西池中」のスローガンの通り、挨拶に対する生徒の意識は高くただ大きい声で挨拶するのではなく、思いを込める挨拶を行うなど、自分の挨拶にプライドをもって取り組んでいる生徒もいる。次年度も教職員からも積極的に挨拶することを通して自発性を育てていきたい。	あいさつへの取組は以前と比べると中学生だけでなく地域全体として衰退してしまっただけに感じている。西池中生が率先して行う姿勢を見せて活気付けて欲しい。	A	生徒の自主性を大切にしながらも、教職員が身近なロールモデルとなれるように努めていく。また、生徒の自治活動（生徒会活動）にも力を入れていく。		
IX	働き方改革	IX－1	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。														12	11	3	0	今年度は校務のDX化に務め、校務改善に務めてきた。また校務改善だけでは組織業務の効率化、最適化には不十分であったため、次年度からの業務分担の改善策についても話うようにした。	様々な校務改善により、教職員の働き方をより良くする検討、実践を重ねている様子が伺えた。次年度はCS校としてさらに改善を図れるようにしていきたい。	A	次年度も校務改善や行事の見直し等を適切に行い、教職員はたらくしやすい環境を整備していく。職員同士で業務について話し合う場を設け、意見を反映させながら改善を継続していく。		

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。 A 評価は妥当である B 評価はおおむね妥当である C 評価は妥当ではない D 評価方法を見直す必要がある